い世代の人たちとも交流するのが純粋に楽しくて元気をもらえる、活動を続けていくうえでそういうのも自分の糧になっているんですね。

萩森　そうですね。なんとか続けられるのは元気をもらえるし楽しいからです。

市長　ボランティアで長続きしようと思ったらまずそこですね。

萩森　私も日本語教室で教えて12年くらいになるかな。教えるようになってから今まで続けていられるのは楽しいからやっているんです。

　日本語教室については市長さんにご覧いただいたとおり、技能実習生がほとんどなんです。私が日本語教室の体験を通じて感じたことは海外に行かなくてもいろんな国の人と話ができるので、そこがいいと思っています。ベトナム、中国、インドネシア、ミャンマー、タイ、フィリピン、モンゴル、アメリカ、フランス、カナダと10数カ国、いろんな人が吉野川市に交流ができる。特に日本語教室の受講生はみんな非常に熱心で日々仕事しながらも日曜日に日本語教室に来てくれます。

市長　みなさん前向きで明るいですね。日本に来て多くを吸収しようという前向きな姿勢ですね。

萩森　みんなが頑張っているので私たちも頑張れる、真面目に教えないといけないなと、そんな気持ちになるんです。そして地元にとっては貴重な労働力になる。もう一つはいろいろ話をしていたら、もっと日本にいたいとか、徳島県で働きたいとか、期限がきても特定技能に移って後5年いたいとか、そういう方が多いです。試験を受けたいので教えて欲しいとかね。

市長　ということは、当然お給料もそうですが治安も含めて日本が住みやすいということでもありますね。

萩森　そうですね。

市長　日本語教室の受講生の獲得というのはどんな感じでされているんですか？例えば技能実習生でいうと受け入れている会社に営業に行くんですか？

萩森　それはあんまりしてないんです。ほとんど口コミです。例えばベトナム人同士のスマホの連絡網のようなもののやりとりで鴨島に無料で教えてくれるところがあるとか、そこへ行ったらいろいろイベントに連れて行ってくれるとか、阿波踊りに行けるとかバスツアーがあるよとかそういうのが飛び交っていると思います。

市長　口コミはすごいですね。

萩森　逆に企業さんからホームページで「日本語教室があるのを見たんですが行ってもいいですか？何を持って行ったらいいですか？」という会社からの要請がある場合もあります。それで「いつでもいいですよ、お金も何もいりませんよ」とそんな感じです。他には日本語教室に来ている人が新しい友達を一緒に連れて来てくれたりもします。

国際交流協会主催の日本語教室にて

市長　そういうネットワークで教室に来てるんですね。例えばインドネシアだったらインドネシアの人たちのグループとか、ベトナム、中国とかそれぞれのグループで「楽しい会があるから行こう」となるわけですね。

萩森　そうですね。例えばバスツアーを開催したとしたら、日本語教室に来ている人の友達10人が一緒にバスツアーに参加したいということもあるんです。

市長　今はコロナ禍でそういう企画ができなかったと思いますが、活動できなかった時期に大変だったところはありますか？

萩森　ありますね。イベントを思うようにできない、それと教室も。

市長　していいかどうかの判断も難しいですよね。もしそこで感染が広まってしまったりしたら会社の方にも迷惑をかけることになりますよね。

萩森　そうなんです。私たちもあくまでもボランティア活動ですし、イベントの開催は不要不急の活動ですから。日本語教室に関しては、去年（2021年度）とその前の年は、教室が閉鎖の時にはZoomを使ってオンラインでやっていました。ただZoomで実際日本語を教えるのは難しいので、近況報告、今どうしてる？大丈夫？とかそういうやりとりをしていました。使えるようになるのがなかなか大変でした。

市長　講師のボランティアとして日本語教室に参加しようと思ったら英語がある程度できないと駄目なのかなと思っていましたが、しゃべれなくても全然大丈夫なんですよね。

萩森　はい。ほとんどの外国人が母国で半年とか1年日本語を勉強してからきているので。私たちは全部日本語だけで教えますから。

市長　あとは、今後のいろいろな活動の中で若い地元の人たちに参加してもらえたら嬉しいですよね。

萩森　そうですね。できれば若い人に日本語教室に来てもらって、最初は横に座ってみんなの話を聞いたり、実習生に質問したり話し相手になってもらいたいです。そこから少しずつ始めていけばいいんじゃないかなと思います。「とりあえず1回来てみてください」と伝えたいですね。

市長　地元の若い人たちにも視野を広げてもらいたいですね。若いうちに異文化交流といいますか広い視野を持っておくというのはとても大事なことですよね。そういった意味で国際交流協会の活動はいいきっかけになりますよね。

萩森　そうですね。親密につきあうほど分かるようになりますね。

市長　元々の目的としては外国人の方に日本語を教えて徳島での生活を充実してもらうというものだと思いますが、そこに関わるいろんなボランティアの方もそれぞれ自分自身が成長できる。そこが楽しいところなのかなと。

萩森　そうですね。教えるだけではなく、逆に刺激をもらうと思います。私も日々刺激を受けています。

市長　萩森さんの活動をいろいろお聞きしましたが、今後他にも取り組んで行きたい希望とかがありましたら。

萩森　これは提案なんですがもっと吉野川市も外国人を受け入れる、そういうことに取り組んでいただけたらという気はします。吉野川市の人口が減るとしたら、外国人が増えれば減った分を補えるんじゃないかと。

市長　将来の人口ビジョンは先行きが厳しい状況なんです。当然、移住者獲得とか子育て支援とか他市町村に負けないようにやっていくんですが、それでもやっぱり統計上減ることが想定されているのでそのときを見据えて、いかに行政サービスを持続可能なものにしていくのかが大きな課題です。

　最後になりますが、本年3月に吉野川市国際交流協会は徳島県から「ユニバーサルデザインによるまちづくり賞」を先進的な取り組みをされているということで表彰していただいたんですよね。萩森さんらの活動をもっと地域の方々に知っていただきたいと思っています。今は多様性の時代、障がいのある方やLGBTQの方、外国人の方など、多様性を認める社会という話をよく聞くと思います。そういう取り組みの延長が住みやすい地域につながっていくのかなと思っています。外国人も気兼ねなく住めるまちというのは私たちにとっても住みよいまちだと思います。

　萩森さんが日本語教室でバイタリティあふれて楽しそうにされている姿が印象的で、まだまだお元気でご活躍いただきたいと思います。本日はありがとうございました。

日本語教室に参加したメンバーのみなさんと

吉野川市国際交流協会

地域に密着し、市民が主体となり、市の国際化を図るため、多彩な事業を実施し、国際社会における人間愛と平和の形成に寄与することを目的としている。主な事業は、国際性豊かな人材の育成や国際化教育の充実、国際感覚を備えた地域づくりなどさまざまな事業を行っている。

●ホームページアドレス
https://yia2020.net/